

18歳未満のお子様にスマートフォンを利用させる場合は、保護者の方は次の点に注意してください。

1 適切にインターネットを利用させる

SNSを利用して子供たちを言葉巧みに誘い出すトラブルや事件も発生しています。スマートフォンの使い方などインターネットの知識、情報モラルやコミュニケーション能力を親子で身につけることが重要です。

2 家庭のルールを作る

適切な生活習慣が身につけられるように、お子様と一緒に話し合って我が家のルールを作りましょう。
「利用時間は夜9時まで」など、ルールは具体的に決めましょう。

3 フィルタリングなどを設定する

「フィルタリング」は、知識が十分でないお子様が、不用意に違法・有害サイトにアクセスしないよう制限する機能です。子供たちが事件・事故に巻き込まれないために、「フィルタリング」を必ず設定してください。

○実際に起きたトラブル事例をまとめた「インターネットトラブル事例集」も活用ください。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

総務省インターネットトラブル事例集

検索



出典：インターネットトラブル事例集（2018年度版）

メッセージアプリ内の会話による悪口や仲間外れ

うっかり「？」をつけ忘れたために

一方的にグループから外されてしまった



クラスの仲良し数人でやっているグループトーク。Cさんは、メッセージの最後に「？」をつけ忘れたまま、スマホを置いてお風呂に入ってしまった。



お風呂上りにスマホを見ると、「ひどい！」などのメッセージが。誤解を解こうとしても、反応なし。Cさん以外のメンバーは別グループを作り、Cさんを外したのです。

考えてみよう！ 会話の流れが速く、ささいなことでも誤解や感情の行き違いが生じやすいグループトーク。トラブルに発展することなく、仲良く使い続けるために気をつけたいことは？

A. 誤解を与えないために

「？」と「！」では意味が真逆になることもある文字の会話。記号やスタンプ、(^.^)のような顔文字を活用して、気持ちが正しく伝わるよう工夫しながらやり取りすることが大切です。

B. 速くて複雑な会話だから

グループトークはテンポが速く、複数の会話と並行して飛び交います。途中参加をすると、流れをつかむのは至難の業。でも、曖昧なままだとやりとりするとトラブルに発展することもある。

C. ムカツ！イラッ！としたら

どんな会話でも、嫌な気持ちになることはあります。そんなときは感情をすぐにぶつけず、一呼吸して考えて。文字だとケンカになりそうなら、電話で話してみるのも良い方法です。

【本ページの内容に関する問い合わせ先】

総務省 北海道総合通信局 情報通信部 電気通信事業課／電話：011-709-2311（内線：4704）



子どもの権利条例が、平成31年4月で施行10周年を迎えます。

子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利ニュース

The Rights of the Child

第20号
平成31年3月発行

SAPPORO こども特派員2019 発表会

主催：（公財）札幌国際プラザ

どうしたら札幌が、国や文化を越えて
みんなにやさしいまちになるか考えよう！

1月12日（土）、札幌市民交流プラザのSCARTSコートで「SAPPORO こども特派員2019」の発表会が開催されました。15名のこども特派員が、外国人にインタビューをした経験をもとに、多文化共生の視点からどうしたら札幌のまちがもっと魅力的になるか話し合い、その成果を発表しました。



こども特派員ってどんな活動をしてきたの？

今回、札幌市内の小学6年生15名が集まり、12月9日のミーティングで初顔合わせ。その後、札幌に住んでいる外国人に会ってインタビューを行い、札幌を「国や文化を越え誰にでもやさしいまち」にするためにはどうしたらよいか、グループでの話し合いを重ねながら、1月12日の発表会に向けて準備を進めてきました。



「日本に来て困ったことはありますか？」

インタビューに協力してくれた外国人は、ガーナ、ベトナム、韓国、トルコ、カナダ…と国も文化も様々。「食事や交通ルールなど、日本と外国で違いはありますか？」「地震や雪で困ったことはあり

ますか？」など、子どもたちは少し緊張しながらも一生懸命インタビューしました。



話し合い、動画の編集、発表の準備…子どもたちは大忙し！

外国人の生の声を聞いた後は、「みんなにやさしいまちSAPPORO」をテーマに、グループごとに話し合いを行いました。今回、子どもたちは動画の編集にも挑戦。インタビュー動画を編集し、発表原稿をつくり、役割分担を決めてリハーサルと、発表までにやることは盛りだくさん。大学生サポーターの力も借りながら、みんなで力を合わせて完成させました。

みんなのアイデアを発表！

本番の発表会では、70名近い市民が集まる中、子どもたちはインタビュー動画を活用しながら、今回の活動を通じて

気づいたことや考えたアイデアを発表しました。

「日本人の当たり前≠外国人の当たり前。交通機関の乗り方などを、様々な言語でアナウンスしたり動画で配信したらどうか」「色々な国や文化の人が、興味があることで集まる交流があるといい」など、なるほどと思う素敵なアイデアがたくさんありました。

発表の後は、来場者とポスターセッションを行い、発表の感想や質問をかわしながら、大人と子どもと一緒に、多文化共生や札幌のまちについて考える機会となりました。

参加者の感想

参加した子どもたちからは、「色々な国や文化の人と交流できた」「発表したアイデアを実践したい」などの感想がありました。また、発表を聞いた外国人のインタビュー協力者からは、「子どもたちからエネルギーをもらった」「日本と海外の国の友好関係がもっとよくなるように、今後も協力してほしい」など、これからの未来を担う子どもたちに期待する声が寄せられました。

さっぽろのまちづくりに子どもの声を届けよう！

札幌市では「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を活かす取組を進めています。

今回は、子どもたちの声を札幌のまちづくりに届ける取組として実施している「子ども議会」と「子どもの提案・意見募集ハガキ」について紹介します。

子ども議会開催!!



子ども議員の提案

平成30年度の子どもの議会は、小学4年生から高校3年生までの48名の子ども議員と5名の学生サポーターが、4つの委員会に分かれて、10～12月の期間に札幌のまちづくりについて考え、提案をまとめる活動を行いました。12月27日に市議会の議場で行われた本会議では、秋元市長も見守る中、子ども議員が考えた提案を発表しました。

災害半端ないって委員会

(テーマ:防災)

- 子どもが楽しみながら防災について学ぶための札幌防災検定
- 子ども防災部を作る

C'MON PEOPLE バス乗ろう!!委員会

(テーマ:バスの利用促進)

- みんながバスに乗りたくないような楽しい広報
- 季節ごとにバスの車内に飾りつけをする

U.S.A 委員会

(テーマ:障がいの理解)

- 障がいのある人を助けたいと思う人がつけるマークの作成
- 挨拶など日頃からできる心遣い

SDGs(札幌だってがんばるッス)委員会

(テーマ:SDGsの普及)

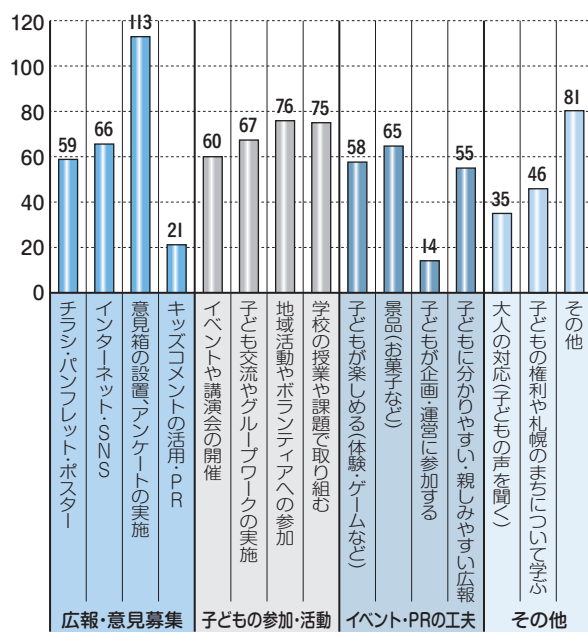
- SDGsは私たちの生活に身近なもの
- SDGsの広報(SDGs弁当や理想の未来を描いたクリアファイルなど)

子どもの提案・意見募集ハガキ

札幌のまちづくりに関する2つのテーマについて、子どもたちから提案や意見を募集するため、返信用ハガキ付きの用紙を市内の学校などに配ったところ、11～12月の期間で合計593名の子どもたちから意見が寄せられました。

テーマ1

子どもの参加の促進 (583名/891件)

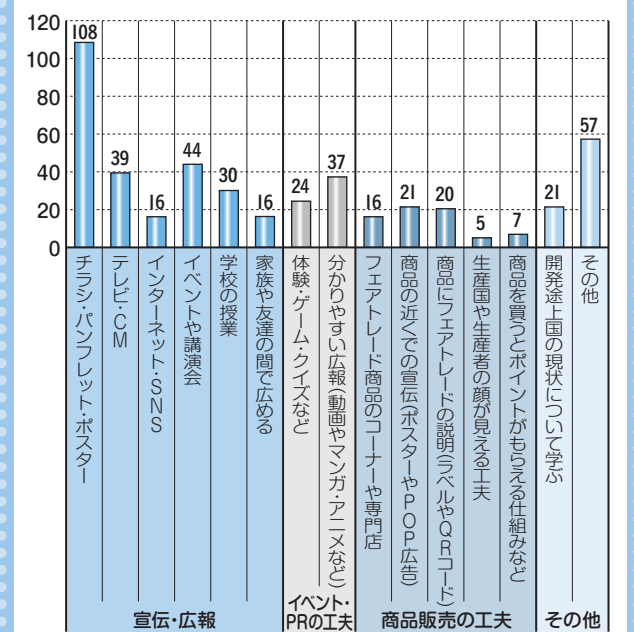


例えばこんな意見

- ツイッターやLINEなどのSNSで広く意見を聞いた方が、子どもにとっては身近でハードルが低い。
- どんなまちにしたいかななどを、定期的にワークショップで子どもたちに考えてもらったらいいと思う。
- 子どもが参加したいと思えることが大切。例えばゲーム大会とか、参加した人にお菓子をプレゼントするとか。
- イベントの企画、運営までをすべて子どもがやるなど、札幌のイベントを「見る」ではなく「体験する」ことで、子どもも札幌のまちづくりに参加できる。
- 「まちづくり」とか堅苦しいタイトルはやめて、「こんなまちがいい!」みたいに、子どもにも分かりやすくする。
- 大人が子どもの声にしっかり耳を傾ける。
- 意見を言うこと、参加することなど、「子どもの権利」についてもっと教えてほしい。

テーマ2

フェアトレードの推進 (313名/461件)



例えばこんな意見

- CMでフェアトレードについて紹介したり、スーパーなどにフェアトレード商品のコーナーをつくってPRする。
- フェアトレードについての知識を出題するクイズ大会やクイズラリーが店やイベントであるとよい。
- フェアトレードマークのある商品を扱うお店を見に行ったりして、友達や家族に教えてあげるのもいい。
- 商品を適正な価格で取引できなかったときの状態を分かりやすい図などで示すと、意識できると思う。
- 商品にQRコードを付け、読み取るとフェアトレードの情報を発信するウェブサイトにとべるようにする。
- フェアトレードカードを作って、フェアトレード商品を買うとポイントがたまる制度を導入したらいい。
- 作られたものの背景に気を配り、その生産に関わる人々、自然に配慮し感謝の気持ちをもつことが大切だと思う。

札幌市の考え方

子どものまちづくりへの参加について、たくさんのアイデアをありがとうございました。

広報やPRの工夫について多くの意見をいただきましたが、今後はインターネット・SNSなども活用しながら、子どもにも興味を持ってもらえる分かりやすい広報に取り組んでいきます。また、札幌市では、子ども議会など、子どもがまちづくりに参加する取組を行っているところですが、今回アイデアをいただいたような子ども

が楽しめる工夫や、企画・運営から子どもに考えてもらう取組などを増やしていきたいと思います。

この他、大人にはもっと子どもの声を聞いてほしい、子どもにも参加する権利があることを知らなかったという声もありました。子どもの権利の考え方を、大人にも子どもにも広く伝えていきたいと思います。

みなさんのアイデアを参考に、子どもが活躍できるまちを目指していきますので、みなさんも住んでいるまちや地域のことについて考え、一緒により良い札幌をつくっていきましょう!

札幌市の考え方

フェアトレードの大切さを理解してもらい、協力して取り組んでいくためにどんなことができるか、ということについて、多くのアイデアをいただき、ありがとうございました。

札幌市では、昨年11月、秋元市長が、まちとしてフェアトレードに取り組んでいくことを宣言しました。市では、市民の団体とともにフェアトレードをPRしているところです。

また、まち全体でフェアトレードを応援する都市を認定する「フェアトレードタウン」になろうとしており、これが認められれば札幌が日本で5番目のフェアトレードタウンとなります。

このような中、今回、みなさんからいただいたアイデアを参考に、今後もフェアトレードの大切さを多くの方に理解していただけるよう取り組んでいきたいと思えます。

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。